

東北大学大学院情報科学研究科

(1)	シンポジウム開催支援経費 学際的研究プロジェクト支援経費 実績報告書
タイトル	日中音響学会議 2007 (Japan-China Joint Conference on Acoustics 2007 (JCA2007))
(2) 主催者	主催：日中音響学会議 2007 実行委員会 共催：日本音響学会, 中国声学学会, 東北大学電気通信研究所, 東北大学大学院情報科学研究科
期 日	2007 年 6 月 4 日～ 6 月 6 日 (3 日間)
会 場	東北大学青葉記念会館
出席者数 (講師・パネリスト等を除く)	85 名
講師・パネリスト 等の氏名・勤務先 等	Kazushi Yamanaka, Shozo Makino, Yukio Iwaya (Tohoku Univ.), Honglang Li, Jun Yang, Yonghong Yan, Heng Zhang, Jianhua Tao, Jing Tian, Fuping Pan (Chinese Academy of Sciences), Akira Omoto (Kyushu Univ.), Shouichi Takane (Akita Prefectural Univ.), Sheng Wu, Jing Lu (Nanjing Univ.), Makoto Otani (Toyama Prefectural Univ.), Toshinori Sagisaka (Waseda Univ.), Masato Akagi (JAIST), Zhangcai Long (Huahong Univ.), Hiroyuki Hachiya (Chiba Univ.), Xihong Wu (Peking Univ.), Tomonari Akamatsu (National Research Institute of Fisheries Engineering), Futoshi Asano (AIST), Masato Miyoshi (NTT Corp.) 計 23 名
(3) 目 的	本会議はこれまで、1985 年、2002 年に行われ、今回は 3 回目となるものである。本会議は、デジタル時代における「音響学」の今後を、21 世紀の音響学の担い手として重要な地位を占めることが期待されている日中の研究者同士で討議し、今後の方向を探ることを目的として開催される。これまでと同様、日中の音響学に携わる多くの研究者が参加し、活発な議論が行われることが期待される。
(4) 内 容	日中 2 名ずつのキーノート講演に加え、4 つのスペシャルセッション (3-D reproduction / Audio reality, Speech signal processing / coding / enhancement, Bio-Acoustics, Acoustics for Future IT), 2 つのポスターセッションがシングルトラックで 2 日間実施された。また、通研、青葉山の音響に関する研究室のラボツアーも実施された。
(5) 情報科学研究科 にとっての意 義・貢献度	日中の音響研究はそれぞれの得意分野が異なっていることもあり、両国の音響研究者が一堂に会して議論を行ったことで、参加者には大きな刺激となったようであった。また、当日、学内の研究者が会議会場に訪れ、ポスターセッションのポスターを見学していったこともあり、学内への寄与も大きかったと思われる。情報科学においても重要な学問テーマの一つである「音響学」を題材に研究発表が活発に行われたことから、情報科学研究科に果たす寄与が少なくなかったと思われる。

注 (1) 「シンポジウム開催支援経費」「学際的研究プロジェクト支援経費」より、該当する項目を記載してください。

(2) 当学術企画実施の代表者もしくは責任者及び協力者名を全員記載してください。

(3) 当学術企画を実施した目的を簡潔に記載してください。

(4) 実施された当学術企画の内容を簡潔に記載してください。

(5) 大学院情報科学研究科に対する当学術企画の意義や貢献度を簡潔に記載してください。